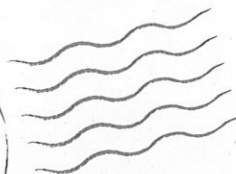


わおん 通信*

2013
秋号
vol.10



特集

夏・子どもたちのエコ



CONTENTS

P2 つくることから「エコ」を知る

P3 ちょっと“苦い”いただきます
汗ニモマケズ人力発電！

P4 セツデンジャー参上！

P5 全国初の「地域貢献型」
メガソーラー
自然エネルギーで地域づくりを！

P6 薪をつかって農をする
バイオマスで地域再生

P7 推進員さん訪問記⑥
なるほど ザ・ワード

夏・子どもたちのエコ



親子で体験しながら、食とエネルギーについて学ぶ夏休みイベントが行われました。テーマは「エネルギーの大切さを知ろう」。いつもスイッチひとつであたりまえのように使える電化製品。今回挑戦

つくることから「エコ」を知る

8月21日(水)大阪ガスと
県センターのコラボイベント開催

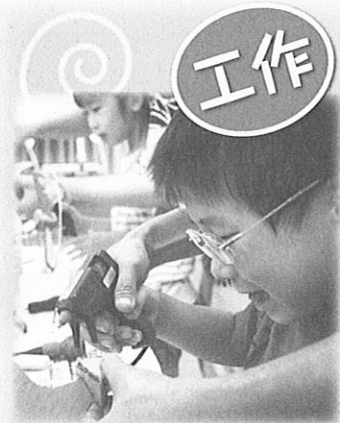
大阪ガス ディリバ和歌山(和歌山市)

する工作は「電気を使わずに指一本で動く扇風機。一体どんなしくみなの?」とみんな興味津々でスタートしました。はじめは、温暖化とエネルギーの関係についてのお話。電気をつくるために大量の化石燃料を使っていること、そこから出るCO₂がどんな影響をもたらしているのかを聞き、今後私たちにできることを学習しました。そしてエコ工作づくり。指を上下に動かすと羽がクルクル回るしくみをもった手動扇風機を完成させます。その名も「ゆびクル」。手順通りにすすめるうちに、いつのまにかお母さん達まで夢中に。子どもも大人も心ときめく瞬間です。

完成した「ゆびクル」のぎこちない動きに笑いながら、「家庭ではなかなかできない体験で母親の私も楽しめました。お話の内容も、また家でも話し合っていきたいです」と話していました。次は料理講習会。野菜を余すことなく丸ごと使う工夫や、地産地消の大切さ、ガスの炎あふれはエネルギーのムダ使いになるなど、家庭でもすぐに始められそうな内容を聞きながら調理していきます。初めて包丁をもつ子どもたちもお母さんに手を添えてもらいながらゆっくり食材を切っていくきます。できあがり近づくと、調理室中にいい匂いが立ち込めてきます。子どもた

ちは、もうお腹ペコペコ。きれいに盛り付け「いただきます」と手を合わせ、みんな美味しく食べました。

工作

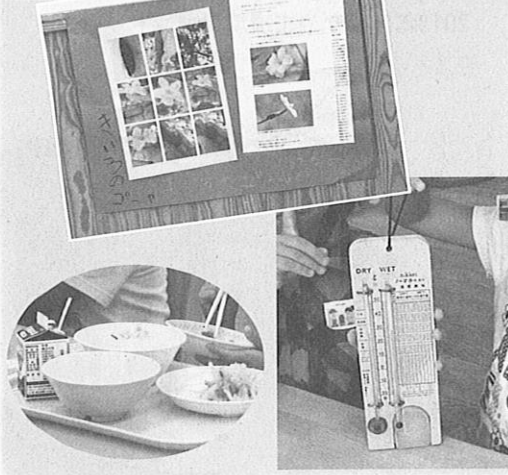


料理



できあがり!





ちょっと“苦い” いただきます

9月6日(金)グリーンカーテンプロジェクト
参加校レポート

和歌山市立有功(いさお)小学校

今年度、グリーンカーテンプロジェクトに参加した有功小学校では、特別支援学級の児童7名が中心となり、教室

の外につくったゴーヤカーテンの水やりや観察、できあがった実の収穫などを根気強く続けています。子どもたちはゴーヤの花や実、また種のでき方など成長をていねいに記録し、レポートを完成させました。

この日、3年生の総合学習の授業では、グリーンカーテンづくりを指導している推進員の山田真器子さんと県職員が紙芝居で、ゴーヤカーテンが校舎の温度上昇を抑えるしくみについて説明しました。また、推進員の佐藤俊さんは、持参した測定器を使いゴーヤ

カーテンがCO₂を吸収していることや、日陰をつくる以外に葉から出る水蒸気も温度を下げることを説明しました。子どもたちは納得の表情で、ゴーヤのパワーにうなずいていました。

また、この日も子どもたちが収穫したゴーヤを使ったスベシャルメニューが登場。ビタミン豊富な給食をみんなでおいしくいただきました。

担任の林素世子(そよこ)先生は「グリーンカーテンづくりを通して、子どもたちが環境の大切さに気づき、一人が役割を果たして協力し合うことができるようになりました」と笑顔で話していました。

有功小学校では、ほかにも竹の子掘りやサツマイモづくり、浜辺で集めたテングサから寒天をつくるなど身近な自然にふれることで、子どもたちは地域の人々に感謝しつつ、自然環境の大切さを学びます。

汗ニモマケズ 人力発電!

8月18日(日) 紀の川市民まつり
紀の川市打田若もの広場

紀の川市地球温暖化対策協議会「エコネットきのかわ」

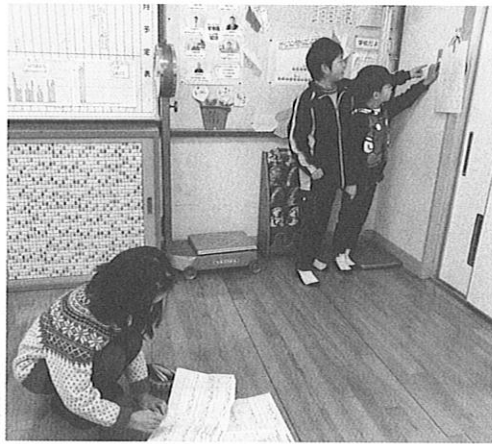


この祭りは、市民総合参加を目的とし、交流の場や地域活性化につながるものです。今年はいろいろな意味で「あつく」農作物も人もうんざりする夏でしたが、エコネット

きのかわのメンバーも準備から後片付けまで、みなさん本当に頑張りました。

当日、会場に設けられたステージでは、紀の川市や県内出身のアーティストのパフォーマンスがあり、各ブースも趣向を凝らしたものが多く、会場は終始大勢の人で溢れていました。

エコネットきのかわのブースでは、温暖化に関するパネル展示や人力の発電自転車「紀つ人君(きつとくん)」を設置。大人も子どもも自転車をこいで、白熱電球を光らせます。みなさん汗をかきながらつくることで、電気の大切さを実感してもらいました。体験者に進呈したLEDつきボールペンがとても人気でした。また、県センターからも「うちエコ診断」コーナーを出展しCO₂削減への啓発を行いました。そして、まつりのクライマックスは約3000発の花火があがり、約4万人の来場者が楽しんだ一日でした。



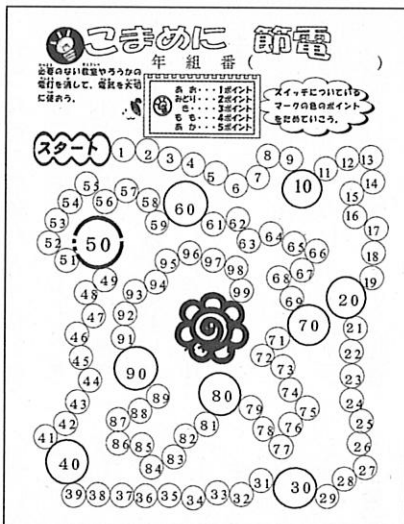
「校内遊具のペンキ塗りをやらせてほしい」と声があがったのは2011年の震災がきっかけでした。子どもたちの「何か役に立つこ

電気を減らす

セツデンジャー 参上!

和歌山市立小倉小学校のとりくみ

2013年度わかやま環境賞エントリー校



に節電活動を展開。また毎日電力量のりや各学級への説明、来校する保護者に節電シールを配るなど、幅広い

節電に成功。学校のみならず、周辺地域をも巻き込んだプロジェクトは今年3年目を迎えます。



チェックを行うなど、コツコツ積み上げる活動も子どもたちが自主的にを行っています。

そして、節電に欠かせない「見える化」の工夫として、すぐろくのよいうな「節電頑張りカード」を用意。あらかじめ教室の蛍光灯が何ワットかを調べて、休み時間に消灯できた分のポイントシールを貼り、達成度がわかるようにしています。さらに優秀なクラスの表彰や取り組み状況をパソコンを駆使してデジタル新聞を発行するなど、継続的な取り組みへの工夫も。その結果、秋から9ヶ月間の電気代が昨年より約20万円の

あなたのおうちは「節電所」?

各地で節電セミナー開催

わかやま「節電所」建設プロジェクト2013



県内全体で夏の節電に取り組み『わかやま「節電所」建設プロジェクト2013』の参加者を対象とし



た節電セミナーが各地で開催されています。セミナー開催に向けた学習会に参加した推進員を中心にご利用に6会場で開催されました。今回、協力団体として参加している消費生活協会は、組合員からの要望があり開催。和歌山市の推進員山城俊二さんが講師となり、ガイドブックに沿って説明。参加者からの質問にも答えました。山城さんは「もったいない」という気持ちをどのように持ちながら取り組めるかがポイント。機器それぞれの特徴を知り、具体的な対策をとることが「節電所」づくりには欠かせません」と話していました。

電気をつくる

プラスソーシャル美里



全国初の
「地域貢献型」
メガソーラー設置

印南町

いま印南町に全国初の「地域貢献型」メガソーラーが建設されています。

この事業は、印南町・龍谷大学・民間会社などが連携し、印南漁港にある外ヶ浜埋め立て地、同町美里（旧県畜産試験場跡地）、龍谷大（京都市伏見区）校舎屋上の3ヶ所に合計約1850キロワットのメガソーラー（総事業費約7億円）を建設するといつものです。

「地域貢献型」メガソーラーのしくみは、龍谷大学が3億5千万円を投資し、それを元に非営利型株式会社「プラスソーシャル」（本社・京都市）などが、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）を利用した売電事業をおこないます。印南町は、漁民用住宅地として平成13年に造成したものの活用されていなかった印南漁港外ヶ浜埋立地を、今後21年間にわたり年間300万円で事業者に貸し出します。さらに利潤（20年間で約5億円）を「地元力財団」（一般財団法人わかやま地元力応援基金）などを通じて和歌山と京都で活動す



印南町メガソーラー予定地

るNPOやボランティア団体などに寄付されるもので、地域の活性化にとって大変興味深いしくみです。すでに美里地域で一部完成していますが、外ヶ浜のソーラー発電の稼働は、今年9月末〜10月初旬頃を予定しています。

また、印南町と龍谷大学は、この連携を契機に「地域連携協定」を締結し、小中学生対象の環境学習事業や自治体運営活性化への協力など、生涯学習や地域活性化の事業に協働で取り組むことになっています。

わかやまの「いま」

自然エネルギーで
地域づくりを!

橋本市で市民発電シンポジウムを開催

伊都橋本地球温暖化対策協議会

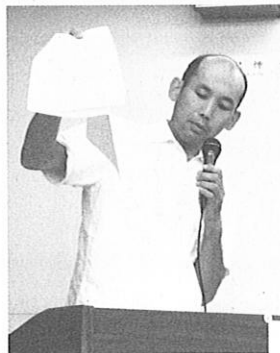


8月24日（土）橋本市教育文化会館で、伊都・橋本地球温暖化対策協議会が中心としてすすめている市民ファンドの活用による市民発電シス

テムの検討のためのシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムには、7月3日・4日で実施された、飯田市の視察参加者、和歌山県の小水力発電担当者、橋本市役所関係者、橋本市議会議員、経済団体代表者など多方面から22名の参加がありました。

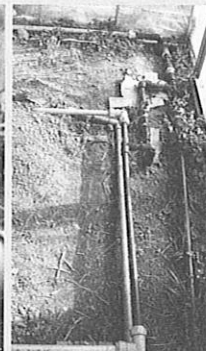
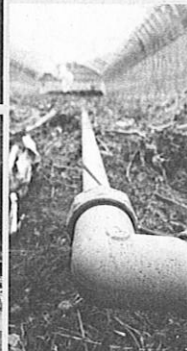
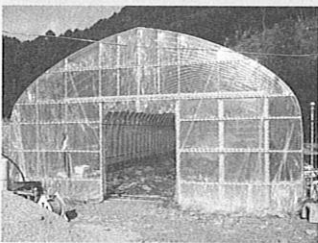
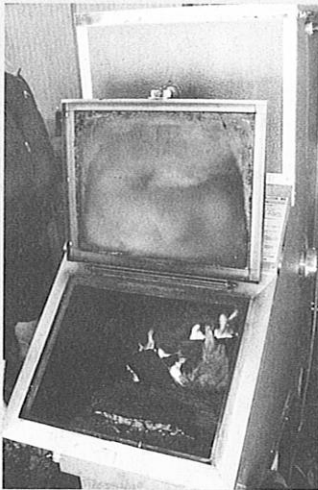
「市民ファンド設立に向けて」の基調報告、飯田市視察参加者からの意見、「紀北地域における小水力発電の可能性について」の報告があり、参加者からは地球温暖化対策の必要性や自然エネルギー普及への賛同への意見、市民ファンド設立のためには、市民の盛り上がりや行政のタイアップが必要であるとの意見があり、有意義なシンポジウムとなりました。今後も、引き続き講演会やシンポジウムを開催し、市民と十分議論しながらすすめていきたいと思ひます。



薪をつかって 農をする

7月31日(水)
「みなべ里山活用研究会」発足

みなべ町



利用価値の低い雑木や間伐材を農業用ボイラーや家庭用ストーブの燃料として活用することで化石燃料を使わず、エネルギーの地産地消により林業の活性化にもつなげていきたいとして「みなべ里山活用研究会」が発足されました。

会の石上代表は、昨年度から自身の農地に薪ボイラーを導入。ビニ-

ルハウス内の土に埋め込まれた配管に温水を廻らせて地中からハウス内を温める方式で、インゲン豆などの栽培に取り組んでいます。「自分たちも取り組みたい」と地区外の農家からも希望があり、この団体の発足につながりました。

今後は、農林水産省の「森林・山林多面的機能発揮対策交付金」を活用し、薪の安定供給を図り、効率のよい薪ボイラーの普及を目指しています。

「導入した薪ボイラーが思い通りに稼動しなかったことがきっかけでした。」

バイオマスで 地域再生

8月4日(日)
薪ボイラーヨーロッパ珍道中
NPO法人地域再生機構・理事
森 大頭(ひろあき)氏 講演
田辺市ひがしコミュニティセンター



左から中尾さん、石上代表、大野さん

今回は、農林水産省の「森林・山林多面的機能発揮対策交付金」を活用するとう同じ目的を有することから、エコネット紀南(紀南地域地球温暖化対策協議会)と薪ストーブ利用者で発足した「紀南薪ぐらしネット」のメンバーにもなり、情報交換とともに薪づくりの作業の協力を得ています。

「導入した薪ボイラーが思い通りに稼動しなかったことがきっかけでした。」

個人所有の場合でも、作業はDIY(自分のことは自分です)の精神が貫かれており、薪割り機や結束機などは共同所有するなく、普及やコミュニティに日本と違いがあると理解できました。ドイツの小さな村レットテンバッハでは若い村長がリーダーとなり、太陽光と木質バイオマスの活用で、地域経済や村民人口増加など豊かな地域再生を遂げた話も。森さんは「木質バイオマス活用は単に個人の好みだけではなく、地域ぐるみで取り組むことが大きな力につながることを地元でも実践していきたい」と熱く語りました。



岐阜県で自然エネルギーによる地域の再生をテーマに実践されている森氏。恵那市にある花白温泉施設に薪ボイラーを共同で設置しましたが機能や配管方法に問題があり、うまくいきませんでした。新たな情報と賢く使いこなす「薪ボイラーの民主化」が必要だと考え、薪ボイラー先進地、オーストリア、スイス、そしてドイツへ。

現地ではメーカー4社を訪問。日本より安価で、専門のマイスターが現場に最適な設計を行っており、どれも含水率の低い薪を使うのが常識

コジロー(センター長)の

推進員^{ひよっこ}さん^{〇〇}訪問記^⑥

楽しいことが好き、お祭りが好き

串本町 新見(しんみ)かおるさん



新見かおるさんは、本州最南端の串本町潮岬で、ご両親と今年16才になるプードルのエリ子との3人+1匹暮らし。5年前に紀伊勝浦で初めて開かれた計4日間の養成講座を受講修了して、第5期の推進員に委嘱されました。

受講のきっかけは、健康づくりも兼ねた古道歩きを楽しく案内する熊野セラピストの講座で知り合った方から、「行ってみたら」と勧められたこと。セラピストの話に役立つかもと考えて申し込みましたが、受講生が足りない聞き、周囲の知人10人に声を掛け、うち4人と連れだって参加しました。講習の内容は結構高度で、「みんなよく勉強してるようで、私が判ったら、ほかに判らん人ないやろな」と思いながらの受講だったとか。

推進員の委嘱を受けて「大きいこと、難しいことは出来なくても」と考えたすえ、まず身の回りからと、県センターが編集する環境情報誌『エコわかやま』(現「わおん通信」)を参考に、お風呂の残り湯を打ち水に使ったり節電で工夫したり、できるところから温暖化対策に取り組んできました。

また、一緒に受講した推進員で作る那智環境ネットワーク(後に南紀環境ネットワークに名称変更)からの誘いを受けて、那智勝浦町で開催された雪まつりにブース出展し、ローソクづくりや太陽光クッキングなどの体験を組み込んだ、温暖化防止の啓発活動などに取り組んできました。

最近取り組んでいるのは、自力で自然エネルギー設備を建設しようと活動している、田辺市の推進員やエネルギーの専門家を中心とするグループのお手伝

い。同グループはこのほど、串本町潮岬の休耕畑に50kWのソーラーパネルを設置。パネルは市販品ですが架台などはホームセンターで材料を購入しメンバーが協力して自力で作成しました。名付けて「DIY電気畑」。関電との系統連携ができ次第、お披露目のイベントを開く予定です。

—で、かおるさんの役割は？

「宴会部長!」「何より楽しいことが好き、お祭りが好き」「楽しいことだったら、なんぼでもアイデアが出てくるよ」「お披露目にはやっぱりお餅ほりがええよね、子ども向けの紙芝居も作って上演したらどうかなあって思って準備してる。あ、だから『アイデア部長』ってのもありかな」

—これから取り組みたいことってありますか？

「最近、異常気象とかも増えてるでしょう」「ちょっとでも自然や環境に関心を持ってくれる人を増やしたいな」「人の話を聞いたり話したりは好きだから、人を繋いだりするのは割と得意」「お年寄りとか若い人とか、あっちの人とこっちの人とか、私が触媒っていうの?、そんなになってくっつけて、新しいこと、面白いことをやっていけたらいいな」

かおるさんが関わる団体は、ここに紹介した以外にも「A女性会やウォーキンググループなど多彩。だから当然多忙。南紀在住の推進員の会合への参加を打診したところ、「なるべく参加したいから、早めめの連絡よろしく」と、元気一杯のお返事がありました。

なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 ⑥

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

COP19って？

国連気候変動枠組み条約を批准した国々が集まる会議を英語で「Conference Of Parties」といい、この頭文字をとってCOPと略称しています。COPは1995年から毎年晩秋に開かれており、今年は第19回目の会合つまりCOP19が11月11日からポーランドのワルシャワで開催されます。ちなみに1997年に日本の京都で開催されたCOP3では先進国に温暖化ガス削減を義務づける史上初の合意文書が採

択され、京都議定書と名付けられました。

その京都議定書は昨年のCOP18で2020年まで延長されましたが、同年から先の温暖化ガス削減へ全締約国が参加する新たな枠組を再来年のCOP21で決定することになっており、これに向けた合意を前進させることがCOP19最大の課題です。準備会合では、各国が自主目標を提出しそれが適切かを事前に相互審査する方式を米国オバマ政権が提案しており、これに中国など排出大国がどう応じるかが注目されます。

講演
&
実習

★市民参加の森づくり

「土佐の森・救援隊」
中嶋健造氏 迎え

- 日 時：10月19日(土)13:00～
10月20日(日)9:00～(予定)
- 場 所：季楽里[KIRARI]龍神(田辺市龍神村189)
- 参加費：①基本無料(各日とも昼食は各自用意)
②初日交流会4,000円[夕食付・仮設定]
③宿泊ご希望11,500円[交流会、宿泊、朝食・昼食弁当付]
- 講 師：中嶋健造氏[土佐の森・救援隊 理事長]
- 申込み・問合せ：電話073-499-4734 わかやま環境ネットワークまで
- しめきり：10月17日(木) [定員になり次第しめきり、講演・実習にのみ参加をされる方も申込みが必要です。]



★紀の川市食育フェア

- 日時：11月24日(日)10:00～15:00
- 場所：紀の川市貴志川生涯学習センター
(紀の川市貴志川町長原447-1)
- 主催：紀の川市食育推進会議

★きのかわ環境フェア

テーマ『3R運動は地球を救う!』

- 日時：12月8日(日)10:00～16:00
- 場所：紀の川市那賀総合センター
(紀の川市名手市場1456)
- 主催：「きのかわ環境フェア2013」実行委員会

★わかやま「節電所」建設プロジェクト 表彰式

- 日時：2014年1月26日(日)14:00～16:00
- 場所：和歌山市北コミュニティセンター(仮)
(和歌山北インターそば)

★再生可能エネ発電設備導入状況が公表[経産省]

経済産業省サイト上で導入状況が公表されました。
http://www.meti.go.jp/press/index_2013.html
の8月20日の記事を参照
もしくは「経産省 再生エネ 導入」で検索



うちエコ診断

申込受付中

無料

ライフスタイルの見直しに! 省エネ・省CO₂のために!

診断期間：2013年12月末まで

訪問診断・窓口診断・会場診断・団体診断を行っています。

- 各家庭に合わせた、オーダーメイドの対策を提案します
- うちエコ診断員が診断を行います
- 専用ソフトを用いて一目で分かるご説明をします

STEP1 事前アンケートにお答えいただきます

STEP2 うちエコ診断の受診

- 平均値との比較
- CO₂排出の内訳
- CO₂削減目標の設定
- 削減対策と効果

STEP3 事後アンケートにお答えいただきます

お申込・お問合せ NPO わかやま環境ネットワーク
電話:073-499-4734 〒641-0014 和歌山市毛見996-2

【詳しく知りたい方は】
<http://uchieco-shindan.go.jp>
(地球温暖化防止活動全国センター うちエコ診断事務局)

2013 秋号 vol.10



発行/和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL:073-441-2690 FAX:073-433-3590
mail:e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ/和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL:073-499-4734 FAX:073-499-4735
mail:wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。